

Kyoto Educational Window

テーマ「八幡支援学校の開校について」

- 佐藤弘樹（ α -MORNING KYOTO パーソナリティ）

きょうは、この4月に開校しました「京都府立八幡支援学校」について
八幡支援学校 校長 の 山田 和孝 さんをお迎えしてお話を伺います。』

- 佐 藤

『京都府の教育に対する取り組みやお知らせを
教育委員会の方をお迎えしてわかりやすくご紹介する
“Kyoto Educational Window”
きょうは、昨日に開校しました
「京都府立八幡支援学校」
についてお話を伺います。』



佐藤弘樹氏（ α -MORNING KYOTO
パーソナリティ）

- 佐 藤

『山田さん、おはようございます。』

- 山 田

『おはようございます。よろしくお願いします。』

- 佐 藤『早速ですが、昨日、
八幡支援学校の入学式及び開校式が
行われたそうですね。』



山田和孝（校長）

- 山 田

『はい。昨日、開校及び入学式を終え、小学部、
中学部、高等部合わせて、86名の新転入生が、新しい学校で学校生活を迎える
こととなりました。』

八幡支援学校は、京都八幡高校南キャンパスと同じ敷地の中に設置しており、
式典では、京都八幡高校の生徒がスクールパートナーとして参加してくれまして、
入場の際に、本校の子どもたちと手をつないだり、車椅子を押してくれたり、並
んで歩いたりして一緒に入場し、とても暖かくて和やかな出発を一緒につくりだ
してくれました。

また、2月頃から練習をしていただいていると聞いていたのですが、「校歌」の
初披露を京都八幡高校吹奏楽部がとても素敵な演奏で紹介してくれました。

さらに、両校がスクールパートナーとしての絆を深めていきたいとの願いを込
めて、両校の生徒と一緒に校章モニュメントを制作し、皆さんに披露させていた
だきました。まさに、スクールパートナーの姿が見える式典であったと思いま
す。』

- 佐 藤『新しくスタートした八幡支援学校ですが、
まずは学校の「コンセプト」を教えてくださいませんか。』

■ 山 田

『はい。八幡支援学校の学校教育目標はコンセプトですが、「つながり・チャレンジする子ども・学校」として、人と人、学校と学校、学校と社会、現在から未来など子どもたちに「つながり」を大切にしてチャレンジしてほしいと設定しました。

そして、大きな柱を2つ押さえています。

一つ目ですが、開校入学式の様子でお伝えしましたが、全国で初めての試みとなる取組として、八幡支援学校を、京都八幡高校と同じ敷地内に設置し、八幡支援学校の小学部・中学部・高等部の生徒と京都八幡高校の生徒とが日常的に交流したり、授業交流も進めていくというものです。

2つ目ですが、長年の地域や保護者の願いもあって設置された支援学校ですから、地域(校区ですね)の障害ある子どもたちの教育のセンター的役割をもって、特別支援教育を推進していきたいと考えています。

□ 佐 藤『もう少し、詳しく教えていただけますか。』

■ 山 田

『はい。まず、両校の生徒が交流したり、授業交流を進めていくためには、何と言っても両校の教職員が、共生社会やノーマライゼーション社会について共通の理解を持ち、さらに、お互いの学校の特徴や良さを知ることが非常に大切であると思います。その上で、日常の交流では、自主性を尊重しながら、例えば、昼休みに一緒に昼食を食べたり遊んだりしながら交流ができるような広場を設けておりますし、授業交流についても、2学期以降進めていくことを両校で確認しています。

次に、地域に信頼される特別支援教育の推進においては、教員の命である授業作りと改善に重点に置き、子どもたちと向き合える時間を増やし、下校時間の延長、夏休み等の短縮、放課後クラブの対象の拡大等を行います。また、地域支援センター「やわた」を設置し、保育園・幼稚園から高等学校に至るまで発達障害を含んで障害のある子どもたちの教育相談、研修支援等を実施するなど、地域に信頼されるセンター的役割を担いたいと考えております。』

□ 佐 藤『最後に、新しく誕生した八幡支援学校ですが、
今後の抱負などをお聞かせいただけますでしょうか。』

■ 山 田

『はい。学校ができたことに止まらず、地域で障害のある人の理解が一層広がったとか、ノーマライゼーション社会の具体的な姿が見えてきた、等と思っていただけのように、ていねいに時間をかけながら、地域の社会資源となり、信頼されるようになっていきたいと思っています。そのためにも、

子どもたちが互いに尊重し、支え合うような教育の新しい姿を、学校から地域に、全国に大きく発信していきたいと考えています。』

□ 佐 藤『ありがとうございました。
今日、スタジオにお迎えしたのは
京都府立八幡支援学校 校長 の
山田 和孝 さんでした。
ありがとうございました。』

■ 山 田
『ありがとうございました。』